

2023年3月期 決算電話カンファレンス 主な質疑応答記録

日時:2023年4月28日(金)12:00 ~ 13:00

出席者: 代表取締役 社長執行役員 横田 浩

代表取締役 専務執行役員 経営企画本部長 杉村 英男

<電子先端材料セグメントについて>

Q:電子先端材料セグメントの23年度営業利益予想が22年度実績から20億円増の90億円となっている。その増益要因は、値上げ、数量増、減価償却の影響など、どういったものであるか解説して欲しい。特にICケミカルについて22年度は前年比で20億円悪化したとの話だったが、これが23年度改善するのか伺いたい。

A:電子先端材料セグメントについて、売上・利益のドライビングフォースはICケミカルで、ここが伸長することで売上・利益が増えると考えている。特に台湾のFTACが昨年稼働開始しているが、大手デバイスメーカーの評価も順調に進んでいて、主に6nm以下の先端品の半導体向けに採用が進んでおり、ここがかなり伸びていく。半導体デバイス市場も足元需要は落ちており、大手デバイスメーカーも例外ではないが、ローリングフォーキャストでそういった数字ももらっており、利益的には前年比で30億円以上取り返していく見通しである。また放熱材について、比較的堅調であることに加え、新規のFAB建設に伴う半導体製造装置への受注も入っており、価格修正をしながら増量も行っていく形で進めていて、これも増収増益で効いてくると考えている。

<歯科器材事業について>

Q:歯科事業において、先行投資もあるのでコンサーバティブな見通しに見えるとの説明もあったが、まず22年度ではどの地域が伸びていて、そこはまだ投資が必要なのかどうか、また23年度においては、同じ地域をターゲットとするのか、それとも別のことを考えているのか、説明して欲しい。

A:22年度伸びたのは南米。当社の補修材にホワイトニング効果があり、現地の歯科医に大きな支持を得ていて急速に数量が増えている。ただし、流通網の整備や生産体制を構築するため、投資や準備を進めている。またそれに伴う広告宣伝も行っており、費用が増えている状況。北米では現在オムニクロマの拡販を進めており、今年度はさらに欧州で拡販を強力に進めていくための準備を進めている。これらが販売コストの増加につながっている。

<セメントキルン1系列停止検討について>

Q:セメントキルン1系列停止検討については好印象。決定は、時期的にいつ頃になるのか、撤去費用がどの程度になりそうか、販売は国内を優先して輸出を絞っていくことになるのか、教えて欲しい。

A: まず時期については、明確に定めていないが上期中には検討を終えたいと考えている。セメントの場合、セメントから生コン、さらに2次製品や固化材等々、非常に幅広く流通しており、方向性を早く決めなければ様々な影響が出るのが懸念されるため、検討はできるだけ短期間で終わらせたいと考えている。設備の廃棄については、もし止めるとすれば有姿除却という方向になると思う。供給に関しては、基本的には輸出向けで調整し、加えてケースによっては国内の不採算向けも調整の対象になる可能性があると考えている。

以上